

栃木県の果樹園におけるクビアカツヤカミキリの発生状況について

経営技術課・生産振興課

令和4（2022）年10月

・果樹園で被害が確認された市町は、昨年度までの3市町の他に、新たに宇都宮市、鹿沼市が加わり、計5市となった（令和4年9月末時点）。

○果樹園における被害状況

（発生状況調査（令和4年7月）、点検調査等（随時）により集計）

クビアカツヤカミキリによる農業被害は、今年度、新たに宇都宮市（7月）及び鹿沼市（8月）のうめで確認され、県南から県中部に拡大した（図、表）。

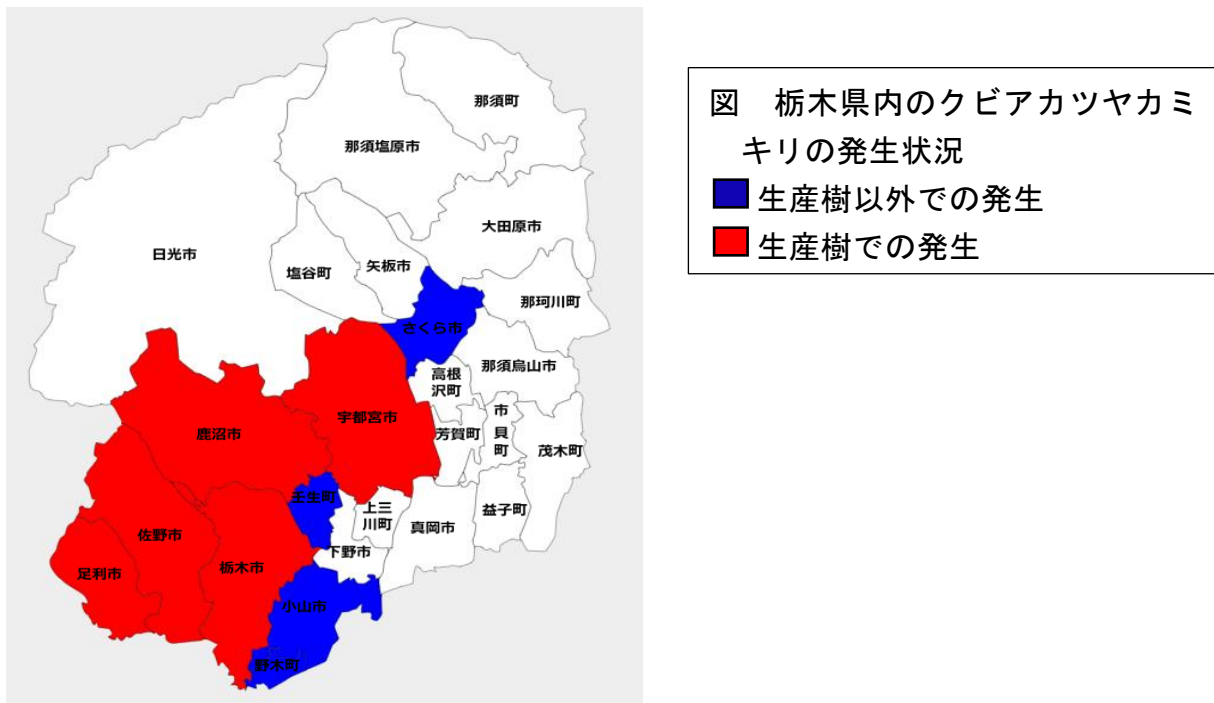


表 被害発生市町の推移

年度	市町
H29（2017）	足利市、佐野市
H30（2018）	足利市、栃木市、佐野市
R元（2019）	足利市、栃木市、佐野市、小山市
R2（2020）	足利市、栃木市、佐野市
R3（2021）	足利市、栃木市、佐野市、小山市、壬生町、野木町
R4（2022）	足利市、栃木市、佐野市、小山市、野木町、宇都宮市、鹿沼市、さくら市

注1：下線市町は、果樹園の被害が発生

注2：壬生町は、R3年度に被害樹を処分済みのため、R4年度現在は被害なし。

参考：発生状況調査の概要

(1) 調査方法

- ・時期：令和4（2022）年7月1日（金）～29日（金）
- ・場所：県内25市町の82果樹園
 - ※ 佐野市、足利市については、H29～R2は全てのもも園地（約2,000～3,000樹）を調査したが、R3以降は抽出調査（約800樹）とした。
- ・樹種：もも、うめ、すもも、おうとう、その他核果類、合計4,836樹
- ・方法：調査ほ場内の全樹の被害（成虫もしくはフラス※の発生）を目視確認
 - ※ 被害樹から幼虫が排出する木くずと糞の混ざったもので、幼虫による被害の指標となる。
- ・調査実施機関：各農業振興事務所

(2) 調査結果

- ・クビアカツヤカミキリの被害は4市（足利市、佐野市、栃木市、宇都宮市）で確認された（図）。
- ・被害発生市町における当該樹種※の被害樹率は約22%（238本/1092本）であり、昨年度と比較して増加した（R3年度：約17%（136本/810本）。同じく被害発生ほ場率は71%（29ほ場/41ほ場）であり、昨年の78%（25ほ場/32ほ場）よりやや低下した（図）。

※ もも：佐野市（H29～）、足利市（H29～）
うめ：栃木市（R元～）、宇都宮市（R4～）

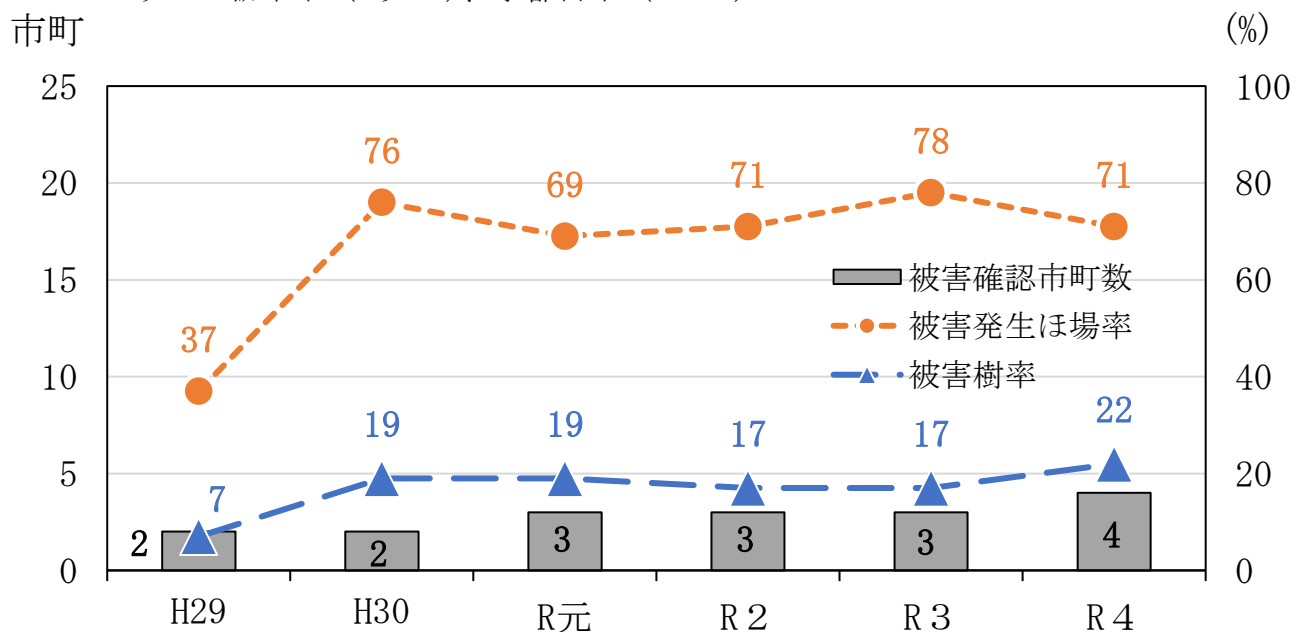


図 被害確認市町におけるクビアカツヤカミキリ発生状況の推移